令和６年度　府中市立府中第四小学校　経営報告

令和７年３月１０日
府中市立府中第四小学校長
安原　一朗

１　目指す学校

府中第四小学校は、明治６年開校であり、長い歴史と輝く伝統のある学校である。開校以来、地域や保護者から「地域の中の学校」として愛されている。保護者や地域の方々の本校の教育に対する関心は高く、昔も今も誇りに思い、期待をかけ、応援を惜しまない地域である。１５１周年の歴史と伝統を守りつつ、さらなる発展を行う使命がある。保護者の期待に応えるため一人一人の子供の健やかな成長を目指して心豊かで将来に夢や希望を抱いてたくましく生きていく子供を育てる。そのために、子供たちが目標に向かって日々の努力を継続し、学ぶ喜びや励む楽しさを体得できる学校づくりを行う。児童も教職員も活力にあふれ、自己実現できる学校を目指す。

人間尊重の精神を基調に、心身ともに健康で人間性に富み、自主性と実践力のある
「みずから　きりひらく　たまっ子」児童を育成する。

たくましい子
心と身体の健康づくりにねばり強く取り組み、最後までやりとげる子供

まっすぐな子
自ら学び　自ら考え　正しく判断し、表現することができる子供

こころあたたかい子
互いを尊重し合い、思いやりの心と協力心をもって、よりよい集団を築こうとする子供

２　今年度の取組と自己評価

（１）主体的・対話的・深く学ぶ児童の育成

ア　基礎・基本を徹底する

- 学習規律については、①教師がしゃべるときには、完璧な沈黙を求める。②『先取りおしゃべり』は許さない。③教師が授業中の小さな音に敏感になる。④「はい・立つ・です」と発言の約束を徹底する。ことで、実現した。
- 心の通ったユニバーサルデザインの考えを取り入れ、言葉の力を信じて、全ての児童にとってわかりやすい授業づくりを推進した。ＩＣＴ機器の活用とユニバーサルデザイン化された授業で、授業を視覚化させ、ねらいに迫り、授業の中で学力を保証する。学校公開では、毎回はＩＣＴ機器を活用した授業を行った。
- 朝の時間を活用し算数、国語、読書の時間とし、書き込み型のスキル形式のドリルやタブレットをすき間の時間に活用し児童の基礎・基本の定着を図った。
- 平日「毎日宿題」と「学習マラソン」（６年生）を推進し、学習習慣の定着を図った。
- 高学年では期末考査を導入する。学期末計画表を活用し、目標を立て計画的に学習する習慣を身に付けさせた。
- 全ての授業で、「発見、対話、決定、表現」を取り入れた授業を実践させた。主発問に対して個人で考えノートに自分の考えを書く時間、意見交換し共有する時間、さらに自ら深く考える時間を一時間の授業の中で展開させた。

イ　言語活動を取り入れ自分の考えをもち、表現できる児童を育成する

- 国語科の授業を中心にして言語活動を重視して、読書活動の推進、俳句や短歌を発表する集会を実施した。今年度は体育館で集会できた。（五七五集会）また、校内掲示の工夫等により、思考力・表現力を高めた。
- 算数科では、多様な考え方ができる課題に向けて児童の様々な考えをノートに表現し、学級で発表することで共有し、さらに深め、思考力や表現力を高める問題解決学習型の授業と、スモールステップで習得、習熟を重視する授業とをバランスよく実施し、「わかる」「で

きる」を児童に体感させた。問題解決学習型の授業は単元の初めに実施し、あとは習得、習熟を重視する授業を実施した。

また、若手教員には国語、社会、算数、体育、道徳の授業を校長が「やってみせ」その後の授業を教員に「させて」、その成果を「ほめて」育てた。さらに、学校内共有フォルダに「追試したい授業ベスト２００」を設け、日々の授業や授業参観等で活用させた。

ウ　少人数指導や学校支援員の活用

・　算数指導において、低学年でも少人数習熟度別指導を実施し基礎基本の徹底を図った。さらに中学年と高学年では個に応じた少人数指導に発展させ児童の学力向上を図った。また、ＩＣＴ支援員の協力のもと、ＩＣＴを活用することで分かりやすい授業を実施した。

・　授業の年間指導計画のねらいを達成するために学習支援員を効果的に活用した。安全安心の確保のために、理科、家庭科に優先して配置した。

（２）人間性豊かな児童の育成

ア　豊かな人間関係を育む

・　学校生活の基盤となる学級が全ての児童にとって居心地のよいものになるように児童が落ち着いた気持ちで過ごすことができる学級経営を推進することで、不登校・いじめ等の未然防止、早期発見、早期解決を実現した。いじめの報告は年間５件（保護者に連絡をした程度の事案）重大な事案はなかった。（令和５年度は４件）

・　個と集団のかかわりを重視した対話型の授業づくりを展開した。

・　地区児童会やきょうだい学級集会等、異学年との交流活動を推進した。

・　地域行事（六地区、二地区）に積極的に参加させ、地域の中の一員としての自覚を促した。

イ　体験を重視した活動を推進する

・　各学年で行う全ての体験活動や宿泊行事で児童の感性を育んだ。５年生では、３泊４日の民宿泊型の「わくわく自然教室」を実施した。民宿の方々との触れ合いを通して子供たちに豊かな人間性や社会性や自主性を育むことができた。

ウ　道徳の時間を重視し、道徳性を育む

・　教科書『きみがいちばんひかるとき』を中心に、『郷土府中に根ざした道徳資料集（令和６年３月）』等を活用し、児童の道徳性を育んだ。道徳授業地区公開講座では、『郷土府中に根ざした道徳資料集』を活用して実施し、保護者にも好評であった。

・　全教育活動で道徳教育を推進し、道徳の時間で補充・深化・統合するために、別葉を活用し意図的効果的に授業を行った。

（３）心身ともに健康でたくましい児童の育成

ア　健康な身体づくりの教育を推進する

・　健康な身体づくりを行うために、四小体操、四小ボール体操を継承した。

・　豊富な遊具を活用し、バランス感覚を養い体力向上を図った。

・　体力テストの分析を行い体育科年間指導計画に本校の弱み克服のための手立てを考えた授業を意図的に展開し、検証した。

イ　自ら積極的に運動したいという意欲を育てる

・　体育集会等を活用し、体を動かす楽しさを学ばせ、自ら児童が体を動かす意欲をもたせた。

（４）健全育成の推進

ア　基本的生活習慣を確立し、挨拶、時間、規範意識を育む

・　挨拶運動を推進し、自ら進んで元気よく挨拶できる子供を育てた。
立ち止まり、名前を読んで、目を見て挨拶の後、お辞儀をする『先言後礼』の挨拶を徹底した。

・　学ぶ習慣の定着を図った。（「はい・立つ・です」発言の約束　時間を守る等）

・　児童の生活習慣を確立するため、担任、養護教諭、家庭で連携をとった。

（５）児童の生活環境等の整備

ア　児童が安心できる居場所、児童同士が学び合える環境を教師が意図的に整備する。

・　ユニバーサルデザインを意識し、児童が生活しやすい環境を整えた。刺激を軽減させるために前面の黒板、掲示は多磨っ子の目標（学校目標）だけにした。また、前面の黒板は、連絡や時間割等を掲示しないようにして、常に全面使用可の状態にさせた。

・　学級が児童の居場所になるよう言語環境を整えた。
・　スクールカウンセラー等の活用により個に応じた対応を行った。

イ　校内の指導体制(児童理解を深める情報交換と協力体制）を確立し、教育相談を充実させる。

・　企画委員会、校内委員会を通し児童理解を深めた。
・　スクールカウンセラーによる研修会を年２回行った。毎週の生活指導夕会をスクールカウンセラーの出勤日に合わせ、夕会に参加してもらうことで、児童理解を深め、児童や保護者への対応の仕方等を身に付けた。

ウ　校内の掲示物を充実させ、明るく、夢をもって学習に取り組める環境を作る。

・　季節感や児童の成長を感じる校内掲示物を工夫する。

（６）校内研究を充実させ、本校の課題に対し組織的に取り組む

本校の今年度の校内研究の課題は「ＩＣＴの活用、一人１台のタブレットの効果的な使い方」である。児童の学力を高めるための方策として以下の点を重点として推進する。

・　研究におけるＯＪＴ組織を作り推進した。学年会、研究推進部会の組織的な取組を行わせた。
・　全員１回の授業研究と校内研究会で教師の授業力を向上させた。
・　学年会・専科会・研究推進部会で指導効果を高めるための手立てを考えさせ、研究授業で実践、検証し日々の授業づくりで実践させた。
・　お互いに授業を見合い、授業改善に生かさせた。
・　ＰＤＣＡサイクルを 重視した授業改善を推進し、週案作成と管理職による指導を行った。

（７）地域連携を積極的に行い、地域に根ざした学校を目指す

ア　スクールコミュニティの充実を図り発展させる。

・　保護者、地域、スクールコミュニティ協議会による学校関係者評価や自己評価等により効果的な学校評価を行い、教育活動や学校運営の改善に生かした。

イ　保護者・地域の方々の思いや願いを受け止め期待に応える教育を推進する。

・　年５回「多磨っ子公開日」を実施できた。また、運動会は、午前中の実施とした。学芸会も入場時間等の制限なしで実施できた。
・　道徳授業地区公開講座では、保護者、地域を交えた意見交換会を実施し、四小児童の良さと課題について考え、今後の学校としてのあり方を考えてもらった。

ウ　保護者・地域の方々の協力をいただき、教育環境の充実、地域安全マップ作り等を充実・発展させた。

エ　積極的に教育活動を公開するとともに情報を発信する

・ホームページを月２回以上更新し、学校の様子を保護者、地域に配信した。

オ　六地区小中連携を発展させ、中１ギャップ解消のための手立てを進めた。

・年間３回の小中連携の取組（府中第六中学校の授業参観、南白糸台小学校の公開授業、府中第四小学校の公開授業、小中教員が協力して行う授業）を計画し、実施できた。
・　中学校で行われている学習マラソンと期末考査を５、６年生に導入した。

カ　保護者、児童に地域行事への参加を積極的に呼びかけ、「ふるさと府中」の推進を図った。

キ　学校・家庭・地域の組織的・継続的な連携・協働体制を確立し、日々の教育活動によって児童の理解の深め、課題解決を実践する。共通したビジョンをもった取組の展開通して、旧多磨村地域ぐるみで子供の教育に関する課題・目標等を共有し、連携協働による支援活動等の充実を図った。

（８）安全管理及び安全教育を推進する

ア　危機管理意識を高め、迅速・的確な対応ができる組織づくり

・　四小危機管理マニュアルに基づき、危機未然防止管理、危機最小管理、危機転化管理の徹底を図った。

イ　安全教育

・　四小防災マニュアルの有効運用に努めた。
・　交通安全指導、防犯指導をＰＴＡ、地域、安全ボランティアとの連携を強化した。

・　毎月の避難訓練の実施と日頃からの危機意識と対応力を高めた。
・　学校、保護者・地域、安全ボランティア、関係諸機関との連携強化を図り登下校の安全管理、通学路の安全確認を行った。

ウ　安全な教育環境づくり
・　定期的に安全点検を行い、安全確保に努めた。
・　学校周辺の美化活動及び校庭の環境美化に努めた。
・　学校警備員による巡回による抑止効果を高めた。

◎重点目標

（１）基礎基本の徹底（数字は達成努力目標）

ア　宿題や自主学習の継続指導と保護者の連携を図って徹底する。（全学年９５％）
→宿題・自主学習の宿題は、１００％出しているが、学校評価アンケートでは、保護者は、６６％（前年比－１２ポイント）、児童は、６８％（前年比－３ポイント）が家庭学習をきちんとしていると答えている。課題である。

イ　漢字小テストの継続、週末の計画的な実施等により漢字の定着率を図る。（全学年９１％）
→漢字小テスの達成率は、８０～８５％程度が３分の１、９０％程度が３分の１、９５％以上が３分の１となっており、達成率はおおむね高いが、担任の意識によって違いがみられる。達成率が高い。新出漢字の指導方法は、学校内で共有できた。今後も継続が必要。

ウ　計算力をつけるためにスキル学習をすすめる。（全学年８０％）
→算数の授業の中で、書き込み式のスキルで習熟するまで望んできたが、従来の問題解決学習にとらわれ、習熟が宿題頼みになっている場面が見受けられた。課題である。

エ　算数、国語の単元別テストの達成率を向上させる。（全学年算数８５％ 国語９０％）
→算数の単元別テストの達成率は、国語８５．２％（前年比＋０．５ポイント）
算数８０．０％（前年比-０．６ポイント）、だった。算数も国語も高学年になるほど達成率が低いが、その傾向は算数の方が著しい。今後も８５％～９０％を目標にしたい。

オ　年間を通じての朝読書、図書室環境の整備、読書ボランティアと連携し、読書に親しむ子供を育て、読書習慣の定着を図った。

（２）学力向上を実現する授業改善
研究主任を中心に校内研究を推進し、年間２回の全体研究授業を実施した。（実施１００％）
また週案作成における内容の充実と週案を通した指導を継続した（提出　１００％）

（３）挨拶運動を推進し、「先言後礼」のあいさつ励行１００％を目指す。

（４）ＯＪＴの推進

ア　校長と副校長による授業観察を年間各学級３回以上実施した。授業の課題を激励とともにＡ４一枚程度にまとめ、指導・助言できた。

イ　週１回学年会を確保し学年会では授業研究と児童理解を毎回のテーマに取り上げた。

ウ　校内研究推進における授業改善や児童理解をとおして、教員としての資質を磨き、指導力向上に努めた。

エ　校長通信を随時発行し、学級経営や生活指導・学習指導のポイントを教師に知らせた。

オ　毎週の週案簿で、授業のヒントや、ＩＣＴの活用可能な取組を随時紹介したり、学級経営等の悩みに答えたりすることで、教員が自信をもって自己実現ができるよう激励・指導した。

カ　ＯＪＴ担当が年４回の実に研修会を実施した。内容は若手向けお悩み相談会①（朝の時間の使い方、子供が前向きに頑張る褒め方、声のかけ方）若手向けお悩み相談会②（学級会のすすめかた）Figjam 研修、仕事便利術など。明日の授業にすぐ使える実用的な研修であった。

（５）環境教育

ア　栽培活動、節電・節水、ゴミ減量について通年実施した。

イ　季節に応じた校庭樹木の剪定と学校花壇の美化と校舎内の整理整頓及び美化に努めた。

ウ　多磨っ子池（亀池）の水質浄化を推進し、児童の情操教育に役立てた。